

イスラームから見た十二使徒の正統性とキリスト教の逸脱の原因について

筑波大学人文社会系助教 平野貴大

はじめに

イスラームの世界観によれば、唯一の神たるアッラーは全ての民族に数多くの預言者を派遣してきたが、ムハンマドが最後の預言者である。アッラーは彼らに啓示を下し、モーセには律法書を下し、イエスには福音書を与えた。ムハンマドの教えはモーセやイエスの教えの延長線上にあると考えられている。しかしながら、イスラームは、モーセとイエスの教えは後の人々が旧約聖書や新約聖書を編纂した過程の中で歪曲されてしまったと考える。

イスラームにおいて預言者イエスは数々の奇跡を人々に見せることで、多くの信奉者を獲得したとされる。彼に付き従った弟子たちの中でもアラビア語でハワーリーユーン (ḥawāriyyūn) と呼ばれる高弟は重要である。しかしながら、彼らのイスラームにおける位置付けは十分には研究されてこなかった。そこで、本発表の目的は (1) ハワーリーユーンと呼ばれる「十二使徒」全体をイスラームがどのように見るか、(2) イスラームから見たキリスト教の「逸脱」は誰に帰されるのか、(3) 十二使徒の長として描かれるペトロに対するイスラームの見方はどのようなものであるか、を明らかにすることである。

1. ハワーリーユーンと十二使徒

ハワーリーユーン (ḥawāriyyūn) はクルアーンの中で4回 (3章52節、5章111節、5章112節、61章14節) 言及。彼らの物語は2種類

一部のイスラーム学者はキリスト教徒の伝承 (イスラーイーリーヤート) に基づいてハワーリーユーンを12人と断定し、ハワーリーユーンがキリスト教の「十二使徒」にあたると考えてきた。

ハワーリーユーンという言葉の由来：ハワーリー (ḥawārī) という単語にアラビア語の複数形の語尾 ūn が付いた「ハワーリーたち」

- ・「漂白する (ḥawwara)」という単語に由来。彼らは衣服を漂白するさらし職人
- ・彼らの色の白さや心の純白さうえに。
- ・彼らが白い服を着ていたため。

その他、幾つかの逸話にちなんだ別説もある [Ibn al-Kathīr 1999, vol.2: 45-46; 中田 2002, vol.1: 148-149]

イスラームの伝承では十二使徒の中でもカトリックの初代ローマ教皇と見なされるペトロ (Sham'ūn, アラビア語でシャムウーン) の人物の名前が書かれることはほとんどない

イスラエーリーヤート

ユダヤ教・キリスト教由来の伝承のこと。イスラームにおいてその真正性は薄弱
クルアーンにおける過去の預言者たちの記述は断片的→ムスリムの歴史学者、クルアーン
解釈者の間でイスラエーリーヤートを利用して良いかの議論あり

イスラエーリーヤートの受容例：悪魔論から

・悪魔イブリースはアダム（アダム）とイブ（ハウワー）を誘惑し、禁じられた木から
食べさせたが、この木の種類はクルアーン、ハディースでは言及されていない。

→一部のイスラーム学者はイスラエーリーヤートを根拠にこれを議論

表、イチジク、葡萄、善悪の知恵の木など (al-Ṭūsī n.d., vol.1: 158)

・イブリースがアダムへの跪拝拒否ゆえに樂園を追放された後に、樂園にいたアダムらを
誘惑。どのようにして？

→スンナ派・シーア派に共通してこれらの説をとる学者たちはイスラエーリーヤートに
依拠。①アダムが樂園の出口まで出ていった時に、イブリースが門の近くにいた、②ア
ダムとハウワー2人は以前からイブリースを知っており、彼は地上から語りかけた、③
蛇の顎の中に入ってそこから話しかけた、④文通で直接交流していた、⑤彼は天に近づく
ことはできた (al-Ṭūsī n.d., vol.1: 162; Ibn Kathīr 1997, vol.1: 236)。

①物語 1：アッラーの援助者 (anṣār Allāh)

イエスは彼らの不信仰を察知すると言った、「アッラーに向かった私の援助者（アン
サーリー, anṣārī）は誰か」。弟子たち（十二使徒）は言った、「我らがアッラーの援助者
です。我らはアッラーを信じます。我らがムスリム（イエスに従う一神教徒のこと）で
あることを証言してください」（クルアーン 3 章 52 節）¹

クルアーン 61 章 14 節もこれと同様の内容。

・一説では「イエスは彼らの不信仰を察知する」とはユダヤ教徒が彼の処刑を企てていた
ことをイエスが察知したこと（中田 2002, vol.1: 148）。

・上の引用文中の「アッラーに向かう私の援助者」とは「アッラーの明証を嘘とみなし、
彼（アッラー）の宗教から離れ、彼（アッラー）の預言者の預言者性を否定する者たち
に対して、私を援助する者」、「アッラーとともに私を援助する者」、「アッラーへの宣教
において私を援助する者」 [al-Ṭabarī, 1994, vol.2: 263; Ibn al-Kathīr 1999, vol.2: 45-46]。

¹ 本稿の中のクルアーンの訳は中田（2014）を参照した。クルアーン 61 章 14 節もこれ
と同様の内容である。

ムハンマドの援助者としてのアンサール

ムハンマドは 610 年以降メッカで宣教していたが、激しい迫害を受けて 622 年にメディナ（現サウジアラビア）に移住した。その時に、ムハンマドとともにメッカを逃れメディナに聖遷（hijra）した者たちは「ムハージルーン（muhājirūn）」と呼ばれた。それに対して、メディナにいてムハンマドを迎え入れて改宗した支援者たちは「アンサール（anṣār）」と呼ばれた。

→イエスの十二使徒はムハンマドの弟子たちの先例として描写される。

物語②：食卓（al-mā'ida）の奇跡

十二使徒の求めに応じて、天からイエスに食卓が下された

十二使徒たちが「マリヤの子イエスよ、あなたの主は我らに天から食卓を下し給うことはできますでしょうか」と言った時のこと、彼（イエス）は言った、「アッラーを恐れ、身を守れ、もしお前たちが信仰者であるならば」。彼らは言った、「私たちはそこから食べ、私たちの心を安らげることを望み、また、あなたが私たちに真実を語ったことを知り、私たちがそれについての証人の一人になることを（望みます）」と。（中略）アッラーは仰せられた、「まことに我はお前たちにそれを下す者である。それゆえ、今後お前たちのうちで信仰を拒む者があれば、我らは諸世界で誰をも苦しめたことのない懲罰でその者を責めるであろう」と。（クルアーン 5 章 112-115 節）

・新約聖書にはない物語

・そこで天から食卓が降ると、一説では 7000 もの人々はその 1 つの食卓から食べたとされる。そして、それを食べた病人は完治し、貧困者は裕福になったとも言われる（中田 2002, vol.1: 315）。

→食卓はイエスの大きな奇跡の 1 つであり、十二使徒たちはその奇跡のきっかけになり、また、その証人となった

2. キリスト教の逸脱：十二使徒かパウロか？

一説では預言者の総数は 12 万 4000 人。そのうち天啓の書を与えられた使徒。律法書を与えられたモーセ、福音書を与えられたイエス

ユダヤ教徒、キリスト教徒は使徒の書を改変→ムハンマドのクルアーンが完成版

イエスの教えを曲解してしまったのが誰か？

イスラームの一般的な理解では、十二使徒がイエスの教えを歪曲させたとは考えられない。ただし、十二使徒は普通の人間であるため、間違いを犯すこともあり得る。スンナ派（イスラームの多数派）では、罪も過ちからも免れるという意味の無謬性を持つのは預言

者たちに限られ、シーア派（イスラームの少数派）では預言者とその後継者（イマーム）だけが無謬性を持つとされる。そのため、十二使徒は無謬性を持たないため、彼らが誤った信仰に陥る可能性は否定されない。

スンナ派の碩学イブン・タイミーヤ (Ibn Taymiyya, d. 728/1328) の議論

十二使徒はイエスの磔刑の現場に立ち会っていなかったため、彼らが伝聞からイエスの磔と復活を信じてしまったという可能性は否定できない。そのため、十二使徒の中にイエスが実際に磔になったと誤信した者もいたかもしれないが、彼らはイエスが神ではなくアッラーの使徒であることを確信していた。そのため、十二使徒が意図的にイエスの教えを改変したりしていない限り、イエスの磔に関する誤信は彼らの信仰心を傷つけるものではない (Ibn Taymiyya 2004, vol.13: 106-109)。

「キリスト教の開祖」としてのパウロ (Būlus, アラビア語ではブールス)

パウロ：イエスに会ったことはなく、イエスの生前にキリスト教徒を迫害。磔後に改心し伝道。新約聖書にも 13 の「パウロ書簡」が収録。

スンナ派分派学者シャフラスターニー (al-Shahrastānī, d. 548/1153) によれば、

イエスがペトロに託したものの、「しかし、フールス (Fūlūs, おそらくパウロの名前の Būlus のなまり) が彼 (イエス) の命令を混乱させ、自分自身を彼に並ぶ者とし、彼の言葉を書き換えて、それを哲学者たちの言葉と自分の考え (に対する悪魔) のささやきで混ぜ合わせた」 (al-Shahrastānī n.d, vol.1: 202)。

シーア派の 7 代目イマーム・カーズィムのハディースによれば、火獄の中には大きな涸れ川 (wādī) があり、その枯れ川の中には山 (jabal) があり、その山には谷 (shi‘b) があり、その谷には井戸 (qalīb) があり、その井戸には蛇 (ḥayya) がいるという。そして、その蛇の腹の中に 7 つの箱 (ṣanādīq) があり、その箱の中に 7 人の人物が閉じ込められている。そのうち 5 人は過去の共同体の人物で、2 人はイスラーム共同体の人物である。

「5 人とは、アベル (ハービール) を殺害したカイン (カービール)、アブラハム (イブラーヒーム) と主について議論し『私こそが生きさせ死なせるのだ』と言ったニムルド (ネムルード)、「私こそが最上の主である」と言ったファラオ、ユダヤ教を始めたユダヤ教徒 (Yahūd alladhī hawwada al-yahūd)、キリスト教を始めたパウロ (Būlus alladhī nasara al-Nasārā) である。このウンマからは 2 人の遊牧民である」 (al-Ṣadūq 2008: 661) ²。

² 類似の伝承は他の著名なシーア派伝承集にも収録されている。サドゥークは同様の伝承を別の書物でも収録している (al-Ṣadūq 2010: 256-257; al-Majlisī 1983, v.12: 38; ‘Alī b. Ibrāhīm al-Qummī 2014, vol.3: 1191) 。

現代のシーア派学者ザンジャーニー (b. 1961) は「イエスの死後に起こったことは何か」と題して次のように述べる。

歴史は（次のように）語る。彼の遺言執行人（正統なる後継者のこと）ペトロと残りの十二使徒、及び、信仰者たちに対するローマとユダヤ教徒による追跡は継続し、彼らを弾圧した。それは、30年後にパウロが出てきて、ハウラーン (Ḥawrān) で天から彼の許にイエスが顕現したと主張し、彼（パウロ）の従者が増えるまで続いた。その後、ローマ帝国はパウロのキリスト教 (masīhiyya Būlus) を受け入れ、十二使徒と彼らの信奉者たちへの弾圧を彼らが消滅するまで続けた (al-Zanjānī 1999-2000: 8)。

→十二使徒が受け継いだイエスの真の教えは消滅し、パウロが興した宗教たるキリスト教が逸脱の道を進んだと考えるのが、イスラームの中の1つの有力な主張

3. クルアーン解釈におけるペトロとパウロ：スンナ派の場合

ペトロ、もしくはパウロを暗示するクルアーンの節

彼らに譬えとして町（アンティオキア）の住民を挙げよ。その時、われら（神のこと）は彼らに2人を遣わしたが、彼らはその2人を嘘として否定し、そこでわれらは「3人目 (thalith)」で強化した。そこで彼ら（3人の使者）は言った、『まことに、我らはお前たちへ派遣された者である』と（クルアーン 36章 13-14節）。

クルアーン解釈書に基づく要約：

イエスが2人の弟子をアンティオキアに送り同地で一神教の布教をさせたものの、当時のアンティオキアの王は多神教徒であったため王はその2人を捕らえて投獄してしまった。それを聞きつけたイエスは2人の救出と布教の成功のために、「3人目」の布教者を派遣した。「3人目」は王の信じる神々を信じたふりをして1年間ほど過ごし、同地で病人を治癒し、死者を復活させるなどの奇跡を行って見せた結果、王は彼をとて気に入り自らの側近とした。ある時「3人目」は、牢獄にいる2人の布教者を尋問し、もし彼らに真理があったならば彼らの宗教に改宗しようと王に提案した。そして、2人は王の前に呼び出されて、「3人目」に誘導される形で尋問を受ける。2人は神の許しによってハンセン病患者を治し、盲人の目を見えるように治癒した。また、死後7日経った子供（一説では王ないし高官の息子）を復活させた。別の伝承では、2人の使者は公然と病人や盲人の治癒や死者の復活を祈り、「3人目」はこっそりと神に祈願し、彼ら3人の祈願によって奇跡が実現したという。それらの奇跡を目撃した王とその臣民たちは改心し、彼らの説くイエスの宗教に改宗した。

スンナ派の代表的なクルアーン解釈書の多くによれば「3人目」はペトロのことであると解釈される。また、ペトロは「十二使徒の長 (ra's al-ḥawāliyyīn)」として位置付けられることも (al-Baghawī, 1991-2, vol.7: 11-12; al-Qurtūbī, 2006, vol.19: 425)

別説：イブン・カシール (Ibn Kathīr, d. 774/1372-3) の伝える1つの説では、最初に派遣された2人の使者がペトロとヨハネ (アラビア語でユーフナー, Yūḥnā)³であり、「3人目」がパウロ⁴であるという (Ibn Kathīr 1999, vol. 6: 569)。ただし、イブン・カシールは「この学説は [根拠が] とても薄弱である」 (Ibn Kathīr 1988, vol. 1: 265)。

スンナ派の多くの学者たちはクルアーンにおける「3人目」がペトロを暗示していると解釈することによって、ペトロをイエスの「高弟」かつ「十二使徒の長」と考えてきた。しかしながら、同派のペトロ観には異論がないわけではないようである。スンナ派のパウロ観も必ずしも確定しているわけではないため、スンナ派の中には最初に捕えられた人物の1人をペトロ、「3人目」をパウロと解釈することによって、ペトロよりパウロの重要性を認める少数説もあるようである。

4. シーア派におけるペトロの重要性

シーア派におけるペトロの重要性は5つの観点から説明できる。

(1) ペトロの遺言執行人 (waṣī) 性：シーア派ではクルアーンの「3人目」はペトロと見なされ、様々な箇所では彼は「十二使徒の長 (ra's al-ḥawāliyyīn)」、「彼 (イエス) の遺言執行人 (waṣī-hu)」と描写 (al-Ṣaffār, 2005-6, vol.1, 209; al-Ṭūsī, 1993-4, 591-592; al-Shāzhān b. Jibrīl al-Qummī, 2002-3, 34; al-Majlisī, 1983, vol.28, 5; al-Ṭabāṭabā'ī, 2009, vol.17, 82-83)。

ペトロをイエスの遺言執行人と見なす主張は、初代イマーム・アリーの子孫スライム・イブン・カイス (Sulaym b. Qays al-Hilālī, d. 76/695-6) に帰される『スライム・イブン・カイスの書 (Kitāb Sulaym b. Qays, 以下『スライムの書』と呼ぶ)』にまで遡る (Sulaym 1999-2000, 252, 332)。

(2) ペトロの宗派の救済：イスラームの通説によれば、ユダヤ教徒は71の宗派に、キリスト教徒は72の宗派に、イスラーム教徒は73の宗派に分派するとされ、それらの分派の

³ 後述のようにキリスト教でいう洗礼者ヨハネはアラビア語ではヤフヤー・イブン・ザカリーヤー (Yahyā b. Zakariyyā) と呼ばれる。それに対して、ここで筆者が「ヨハネ」と表記した人物のアラビア語名はユーフナー (Yūḥnā) である。そのため、後者はイエスの弟子であった使徒ヨハネを指すものと推察される。

⁴ 一般的にパウロはアラビア語で Būlus と表記され、綴りの最後の文字は sīn である。それに対して、この箇所では最後の文字が sīn ではなく、sād となっている。

中でも来世で救済されるのは各宗教の中の1派のみである (al-Shahrastānī n.d., vol.1, 20; al-‘Ayyāshī 1991, vol.1, 359-360)。初代イマーム・アリーによれば、

ユダヤ教徒は71の宗派に分派した。そのうち70派は火獄に、1派は樂園に [訳者補注：入る]。それ (その一派) はモーセの遺言執行人、ヨシュアに従った派である。キリスト教徒は72の宗派に分派した。71派は火獄に、1派は樂園に [入る]。それ (その一派) は、イエスの遺言執行人ペトロに従った派である。そして、このウンマ (イスラーム共同体のこと) は73の宗派に分派するだろう。72派は火獄に、1派は樂園に [入る]。それ (その宗派) は——自らの胸に手を当てて——ムハンマドの遺言執行人に従った派である [Sulaym, 1999-2000, 332]。

上記に加えて、ペトロの宗派が救済されることを伝える伝承は多くの文献に収録される [al-Majlisī, 1983, vol.28, 4-5, vol.35, 26-27; al-Mas‘ūdī, 1988, 89; Furāt 2011, vol.2, 378]

(3) イエスによるペトロの指名、ペトロによる後継者指名：

シーア派におけるイマーム位の要件に預言者か先代のイマームからの指名を受けることがある。

預言者ムハンマド曰く「(アッラーは) 彼 (イエス) を召し上げようとお望みになった際に、アッラーの光 (nūr Allāh) と知恵 (ḥikmatu-hu)、彼 (アッラー) の書の知識を、彼の信仰者たちに対するカリフ (khalīfatu-hu) であるペトロに委託するように彼 (イエス) に啓示し給い、彼 (イエス) はそうした (al-Ṣadūq 2011, vol.1, 427)」。

(4) ペトロの奇跡：イエスは多くの奇跡を起こし、ペトロもイエスの奇跡の一部を行なって見せたとされる⁵。ペトロはメシアであるイエスの行為を行い、神の許しによって盲人、ハンセン病患者を治癒し、死者を復活させたという (al-Mas‘ūdī 1988, 89)。7代目イマーム・カーズィムの奇跡に、死んだ雌牛の復活がある。その奇跡によって、伝承集でカーズィムはイエスに例えられている (al-Kulaynī 2007, vol.1, 309)。

(5) ペトロとシーア派イマームたちとの接点：シーア派ではアリーから数えて12代目のイマームが874年から現在まで生き続けて信徒を指導していると信じられている。シーア派の伝承では、12代目イマームの母親はナルジス (Narjis) という名前で、ビザンツ帝国の皇帝の孫娘であったという。ナルジスの父方の祖父はビザンツ皇帝で、母方の祖先はペトロであったと伝えられている。また、ペトロは預言者ソロモン (スライマーン) の子孫

⁵ 新約聖書の外典である『ペトロ外典』の中にもペトロが死者を復活させた物語が収録されている [小河ほか 1981, 68-73]。

であり、イエスの母マリヤの叔父の子であると伝えられている (al-Ṣāfi 2015, v.2, 219-214)。

おわりに

アラビア語のハワーリーユーンに相当する十二使徒はイスラームにおいてその信仰の純粹さが評価され、イエスの様々な奇跡の証人としての役割を与えられた。彼らはクルアーンで「援助者 (anṣār)」と描写され、それがイスラーム初期のメディナで逃げてきたムハンマドを匿い支援した人々アンサールの由来になっていた。このように、イエスと十二使徒の関係はイスラーム共同体におけるムハンマドと弟子たちの理想的で模範的な関係として描かれている。

十二使徒の長ペトロへの高評価はイスラーム全体に見られるが、それはスンナ派よりもシーア派に顕著であった。シーア派では明確に十二使徒の中でもペトロをイエスの正統な後継者と見なすことで、その結果として彼らのパウロ観も定説化したと考えられる。シーア派ではイエスの弟子たちの中では十二使徒全体よりも、彼らの長としてのペトロが重要であった。イエスの遺言執行人としてのペトロは様々な観点でシーア派のイマームの先例となっており、預言者ムハンマドの血とイスラエルの民の預言者たちの血を融合させる役割をも果たしている。

イスラームは歪曲された過去の一神教を正す宗教であると自認する。そして、イスラームから見たキリスト教の中でのイエスの教えの歪曲は多くの場合、十二使徒ではなくパウロに帰されていることがわかった。イエスの模範的な高弟であった十二使徒よりも、イエスの生前に彼らを迫害した一方で後に改心して新約聖書の著者の1人となったパウロの方が、キリスト教の逸脱を帰するに容易であったのだろう。十二使徒を支持しつつパウロを批判するというイスラームの考えは比較宗教の観点で新しい視点として取り上げることができるだろう。

参考文献

- ‘Alī b. Ibrāhīm al-Qummī, [2014] *Tafsīr al-Qummī*, 3 vols, Qom: Mu‘assasa al-Imām al-Mahdī.
al-Baghawī, Abū Muḥammad, [1412/1991-2] *Tafsīr al-Baghawī: Ma‘ālim al-Tanzīl*, 9 vols, Riyād:
Dār Ṭayyba.
Ibn Taymiyya, Aḥmad b. ‘Abd al-Ḥalīm, [1425/2004] *Majmū‘ Fatāwā Shaykh al-Islām Aḥmad b.
Taymiyya*, 37 vols, al-Madīna al-Munawwara: Majma‘ al-Malik Fahd li-Ṭibā‘a al-Muṣḥaf al-
Sharīf.
Ibn Kathīr, Ismā‘īl b. ‘Umar, [1408/1988] *al-Bidāya wa-al-Nihāya*, 14 vols, Beirut: Dār Iḥyā’ al-
Turāth al-‘Arabī.
———, [1420[1999] *Tafsīr al-Qur’ān al-Karīm*, 8 vols, Riyād: Dār Ṭayyiba li-al-Nashr wa-al-
Tawzī‘.

- al-Majlisī, [1983] *Bihār al-Anwār*, 110 vols, Beirut: Dār Iḥyā’ al-Turāth al-‘Arabī.
- al-Qummī, al-Shāhzhān b. Jibrīl, [1423/2002-3] *al-Rawḍa fī Faḍā’il Amīr al-Mu’minīn ‘Alī b. Abī Ṭālib*, Qom: Maktaba al-Amīn.
- al-Qurṭubī, Shams al-Dīn, [1428/2006] *al-Jāmi‘ li-Aḥkām al-Qur’ān*, 24 vols, Beirut: Dār al-Risāla.
- al-Ṣadūq, [2008] *al-Khiṣāl*, Qom: Ansariyan.
- , [1431/2010] *Thawāb al-A‘māl wa-‘Iqāb al-A‘māl*, Qom: Markaz al-Tawzī’.
- al-Ṣaffār, Muḥammad b. al-Ḥasan al-Qummī, [1426/2005-6] *Baṣā’ir al-Darajāt fī Faḍā’il Āl Muḥammad*, 2 vols, Qom: Intishārāt al-Maktaba al-Ḥaydarīya.
- al-Ṣāfi, Ḥusayn al-Mūsawī, [1436/2015] *Ummahāt al-A‘imma al-Ma‘šūmīn: Dirāsa Ta’rīkhiyya Taḥlīliyya ‘Ilmiyya*, 2 vols, Karbalā’: Qism al-Shu’ūn al-Fikriyya wa-al-Thaqāfiyya fī al-‘Ataba al-Ḥusayniyya al-Muqaddasa.
- al-Shahrastānī, Abū al-Faṭḥ, [n.d.] *Kitāb al-Mīlal wa-al-Niḥal*, 2 vols, Cairo: Maktaba al-Anjlū al-Miṣrīya.
- Sulaym b. Qays al-Hilālī, [1420/1999-2000] *Kitāb Sulaym b. Qays al-Hilālī*, Qom: Nashr al-Hādī.
- al-Ṭabarī, [1415h/1994] *Tafsīr al-Ṭabarī min Kitābi-hi Jāmi‘ al-Bayān ‘an Ta’wīl Āy al-Qur’ān*, 7 vols, Beirut: Mu’assasa al-Risāla.
- al-Ṭabāṭabā’ī, [1430/2009] *al-Mīzān fī Tafsīr al-Qur’ān*, 20 vols, Qom: Manshūrāt Jamā‘a al-Mudarrisiyyin fī al-Ḥawza al-‘Ilmiyya.
- al-Ṭūsī, Shaykh al-Ṭā’ifa, [1414/1993-4] *al-Amālī*, Qom; Dār al-Thaqāfa.
- al-Zamakhsharī, Maḥmūd b. ‘Umar, *Tafsīr al-Kashshāf*, Beirut: Dār al-Ma‘rifa, 1430[2009].
- al-Zanjānī, Muḥammad al-Bāqir, [1420/1999-2000] “al-Wajh al-Ākhar li-Ta’rīkh al-Islām,” in *Kitāb Sulaym b. Qays*, Qom: Nashr al-Hādī, 7-12.
- Amir-Moezzi, [2009] “Note bibliographique sur *Kitāb Sulaym b. Qays*, le plus ancien ouvrage shi‘ite existant,” in *Le shī‘isme imāmīte quarante ans après: hommage à Etan Kohlberg* (ed. Amir-Moezzi, Bar-Asher, and S. Hopkins), Turnhout: Brepols, 33-48.
- 青野太潮[2009] 「パウロ書簡」大貫隆ほか（編）『岩波キリスト教辞典』岩波書店、875-876頁。
- 小河陽ほか（訳）『聖書外典偽典第7巻：新約外典Ⅱ』教文館、1981年。
- 中田考（監訳）[2002][2004][2006] 『タフスィール・アル＝ジャラーライン（ジャラーラインのクルアーン注釈）』日本サウディアラビア協会。
- （監訳）[2014] 『日亜対訳クルアーン』作品社。
- 平野貴大[2021] 「シーア派のペトロ（シャムウーン）観：同派におけるキリスト教的伝統の利用と解釈について」『国際社会文化研究所紀要』第23号、9-23頁。
- 宮坂朋[2008] 「パウロ」『岩波キリスト教辞典』岩波書店、874-875頁。